

うらおそい歴史新聞



第47号

歴史ロマン街道「尚寧王の道を訪ねる」 参加者まだまだ募集中です！

浦添で生まれ育った尚寧王は1597年に首里城と浦添グスクの間を石畳道に改修しました。400年の時を経て、その地を訪ね、時代とともに変容してきた道の姿と周辺に残る史跡を探訪します。当日は20人程度のグループに分かれ、歴史ガイドの解説を聞きながら歩くことができます。

文化とスポーツの秋にぜひ一緒に歴史の道があるき、浦添のいいところを再発見してみませんか？



【国指定史跡・浦添城跡で復元された石畳道】

浦添グスクの南斜面の発掘調査で、石畳道の縁石などが発見されました。調査成果をもとにきれいに復元整備され、現在は歩くことができます。

● 日程 11月3日(土) ※雨天中止
● 時間 受付 8時から8時30分
● 出発 8時45分 終了 12時前後

● 集合場所 浦添グスク・ようどれ館
● 解散場所 首里(円鑑池)

● 集合と解散場所が異なります。交通機関は各自で確保して下さい。

● 主なガイドポイント

浦添城の前の碑、龍福寺跡、安波茶橋、経塚の碑、浦添御殿の墓、フェーヌヒラ、太平橋(平良橋)、儀保くびり、安谷ガー、安谷ガー御嶽、龍潭、久慶門(コース長約5km起伏あり)

● ※都合により変更することがあります

● 募集 150名

● 対象 小学生以上(小学生は大人の同伴が必要です)

● 参加料 300円(保険料など)

● 募集期間 10月31日(水)まで

● ※先着順。定員に達し次第締め切り。

● 申込先 浦添グスク・ようどれ館

☎ 098-874-9345

● 受付時間 9時~17時(月曜休)

● 主催 NPO法人うらおそい歴史ガイド友の会

● 共催 浦添市教育委員会

● 後援 浦添市

NHK「英雄たちの選択」琉球スペシャル「独立を守れ！島津進攻 尚寧王の決断」(7月19日)が放送

7月19日にNHKのテレビ番組「英雄たちの選択」で浦添出身の王、尚寧について取り上げられました。番組の内容も含め、尚寧の生きた時代背景についてご紹介します。

●番組の内容

江戸時代初め、独立国だった琉球王国に薩摩の島津氏が侵攻、勢力下におく事件が起きた。なぜ島津氏は琉球に侵攻したのか。当時の琉球王、尚寧王の立場から読み解いてゆく。

もともと琉球王国は中国や東南アジア各国との貿易で栄えてきた。日本とも交流はあったが上下関係ではなかった。ところが豊臣秀吉が天下を取ると、琉球王国にも支配下に入るよう島津氏を通じて迫り、朝鮮出兵に協力させる。秀吉の死後も徳川家康は中国・明との国交回復に琉球を利用しようとするが、琉球は日本の支配下に組み込まれることを嫌い、返事もしない。島津氏からは武力侵攻も辞さない脅迫される。尚寧王の決断は？

以上の内容をテーマに、現地映像とスタジオでの磯田道史氏や千田嘉博氏による討論で番組が構成されました。

●琉球王国とは

琉球王国は、日本の室町時代にあたる1429年に、尚巴志が「按司」や「世の主」と呼ばれる各地の首領を従わせ成り立たせた独立国家でした。

尚巴志は首里城を居城とし、室町幕府をはじめ明国や朝鮮などと貿易を盛んに行い、琉球王国を発展させその基礎を築きました。盛んに周辺諸国と交易をし、繁栄した琉球王国でしたが、1609年薩摩軍が琉球に侵攻し、以降徳川幕府の体制に組み込まれ、独立国家だった時代は終焉を迎えます。

しかし、琉球は国王や將軍の代替わりの際に徳川幕府へ使節団を派遣したり、薩摩藩にも次期国王が派遣されたり、日本と従属関係を維持しつつも、中国に対しては明国、次の清朝へも従うという、二重の立場を取っていました。

日本と中国の両国に朝貢し、バランスを上手にとりながら生きてきた琉球は、

双方の文化を巧みに吸収し、独自の文化を作り上げていったといえます。(ウラ面につづく)



【首里城・守礼門】

●首里城と浦添城をつなぐ尚寧王の道

琉球には、首里王府から発せられる布達や、地方からの年貢を運ぶために各地の間切（現在の市町村にあたる行政単位）を結ぶ幹線道路である宿道が島の隅々にまで広がっていました。そのうちの一つに、中頭方西海道があります。

首里城を起点に、安波茶、牧港を経て読谷に至るルートを指していますが、安波茶橋を越えたあたりまではほぼ中頭方西海道をなぞり、浦添間切番所を経由して「浦添城の前の碑」に至る道を「尚寧王の道」と呼んでいます。

尚寧王は1589年から1620年に在位した琉球王国の国王で、薩摩の侵攻を受けて江戸に連行され、二代將軍徳川秀忠に謁見したことで知られます。その浦添按司家の出身であった尚寧王が、1597年に首里から浦添グスクまでの道を石畳にし、木造の橋を石橋にするなどの整備をする

よう命じました。



【浦添グスクに敷かれた石畳道】

浦添城にある「浦添城の前の碑」（1999年復元）はその時の記念碑で、碑文には平仮



【浦添城の前の碑】

●琉球の信仰と城

名の琉球文と漢文で、道作りの様子や竣工儀礼などの様子が書かれています。

首里城の創建は14世紀といわれています、明治に入り廃藩置県が發布されるまでの約500年にわたり琉球国王の居城として、また琉球の政治・文化の中心として琉球王国の中心としてあり続けました。

沖縄では城のことを一般に「グスク」といい、世界遺産に指定されたグスクは5つ（今帰仁城、座喜味城、勝蓮城、中城城、首里城）で、それらは全て有力な按司が拠点、または居城とした大規模なものといわれています。

しかし、グスクには単なる防御施設ではなく、宗教的側面としての聖地の存在であるものも多く、いわゆる「城」の機能をもたない小さな遺跡を数えると、南西諸島に300以上はあるといわれています。

首里城にも「御嶽」という聖地があり、城ができてから聖地を設けたのではなく、最初にこの聖地があつてその周りに城を築いたという説もあります。グスクは時代によってその性格に変遷があり、聖地でも集落でも墓でもあつたといわれていますが、解明されていない部分も多いのです。

中国と日本の狭間で独自の文化を形成していった琉球王国。その遺跡の多くは第二次世界大戦で破壊されてしまいましたが、人々の努力によって王朝の姿を取り戻しつつあります。



【復元された首里城】

世界遺産に登録され多くの方が訪れる



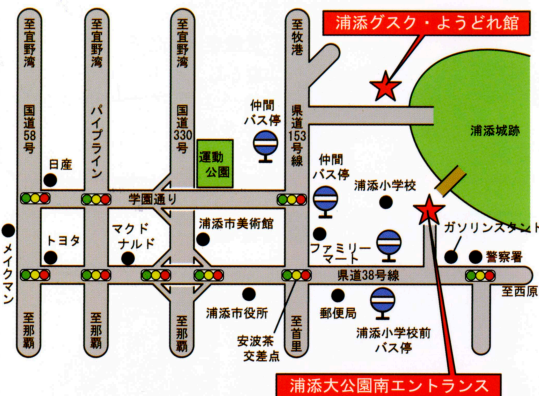
【世界遺産 圓比屋武御嶽石門】

国王の道中の安全を祈願した礼拝所

首里城正殿は1992年に復元されて以降、多くの方がおとずれる傍らで復元整備工事が進められています。首里城全体の往時の姿をみることもできる日もそう遠くはないでしょう。（福里律子）

浦添グスクを学べる施設

浦添グスク・ようどれ館
浦添大公園南エントランス
開館時間 午前9時から17時
休館日 月曜（祝日開館）、年末年始
入館料（ようどれ館のみ）
大人100円 子供50円
市内小中学生は無料です。
問い合わせ 098・874・9345



浦添グスク・ようどれ館と浦添大公園南エントランス展示コーナーの地図

うらそい歴史ガイド ツアー 随時受付中です！

浦添グスクをはじめとした、市内の史跡や歴史スポットを有料でガイドします。
料金ガイド1名当り（20名まで対応可）
1時間 1,500円 / 2時間 3,000円
団体でのご利用や、コースや時間などは相談に応じます。お気軽にご相談下さい。
申込先 浦添グスク・ようどれ館
電話 098 874 9345